(27) イカナゴ資源生態調査

調査方法

1．仔魚分布調査

1)調査実施日

第1回調査：2010年1月8、9日

第2回調査：2010年1月18、19日

第3回調査：2010年2月1、2日

2)方法

ボンゴネットによる湾内12点での往復傾斜曳き採集

2．漁獲物測定調査

1)調査実施日

2010年2月27日～3月24日

2)方法

中部地区の岸和田市漁協と南部地区の深日漁協において、漁期間中の漁獲物を原則として1週間に1回以上の頻度で採取し、100尾について全長を測定した。

調査結果

1．仔魚分布調査

調査の結果をもとに、2010年2月10日に発表した「イカナゴしんこ漁況予報（平成22年）」を「資料1」として示す。

2．漁獲物測定調査

測定結果を表1に示す。

担当者

日下部敬之、大美博昭、中嶋昌紀

表１　イカナゴ資源生態調査、漁獲物測定調査結果

	漁協名	平均全長(mm)	標本標準偏差
2010/2/27	岸和田市	32.5	4.63
2010/3/1	岸和田市	31.8	5.92
2010/3/1	深日	32.6	6.12
2010/3/2	深日	32.0	6.74
2010/3/3	深日	32.9	7.31
2010/3/3	岸和田市	31.6	6.97
2010/3/5	深日	37.9	6.18
2010/3/5	岸和田市	39.0	7.40
2010/3/6	深日	37.8	8.64
2010/3/8	岸和田市	44.5	4.40
2010/3/10	岸和田市	38.2	7.75
2010/3/11	深日	39.0	7.74
2010/3/12	深日	44.1	7.36
2010/3/12	深日	49.4	5.91
2010/3/13	深日	51.4	4.58
2010/3/15	深日	53.6	3.86
2010/3/18	深日	63.5	5.15
2010/3/20	岸和田市	38.5	10.00
2010/3/22	岸和田市	44.9	7.28
2010/3/23	岸和田市	45.9	8.62
2010/3/24	岸和田市	45.7	6.32

各サンプルとも100尾を測定。

イカナゴしんこ漁況予報(平成22年)

平成22年2月10日

大阪府環境農林水産総合研究所　水産技術センター

◎水温(図1)

水温の高低は、イカナゴ親魚の産卵時期(水温低下が産卵の引き金となる)や、ふ化した仔魚の成長(水温が高い方が成長が速い)、生き残り率(低水温の方が良い)などに影響を与える。今冬は12月中～下旬と年末年始に大きな寒波が訪れたため、1月前半の水温は平年および昨年を下回った。その後、1月後半は水温があまり低下せず、平年並みとなった。2月上旬は寒い日が多かったため、再び平年より低くなっているが、気象庁は2月の気温を高めと予測しており、水温も今後は平年並みに近づくものと考えられる。

◎季節風(図2)

季節風(特に西風成分)は、播磨灘から大阪湾に向かう海流を強め、イカナゴ仔魚の大阪湾への流入量を増大させる。また、仔魚の散らばりを促進することによって、生き残りにプラスに働く。今冬は西風がよく吹き、旬平均風速はおおむね平年並みか平年を上回って推移している。

◎産卵量および産卵期

兵庫県水産技術センターは、大阪湾で漁獲されるイカナゴの主な産卵場である、播磨灘鹿ノ瀬海域で産卵親魚の調査を行なっている。その結果によると、今期の鹿ノ瀬海域での総産卵量は、非常に少なかった昨シーズンの1.4倍であったが、例年に比べると非常に少ない量であったと推定されている。一方、親魚の成熟状況と水温の推移から推定された産卵盛期は、12月25日前後であり、昨シーズン(12月25日から1月6日の間)よりやや早かったと考えられている。

◎仔魚の出現状況(図3,4)

今期も、大阪湾内に設けた12の調査点において、プランクトンネットによるイカナゴ仔魚採集調査を3回実施した。

1月8、9日に行なった第1回調査では、湾の北西部を中心にふ化直後の仔魚が採集された。仔魚の分布範囲は昨年よりも広く、湾のほぼ全域で出現した。

第2回調査は1月18、19日に行なった。仔魚の出現数は1点あたり平均24尾で、過去の同時期平均水準よりかなり少なく、昨年同時期とほぼ同程度であった。分散状況は良好で、湾東部海域での出現数も比較的多かった。平均全長は6.5mmで、昨年同時期よりやや大きかった。ふ化直後の仔魚はあまり採集されなかった。

2月1、2日に実施した第3回調査で採集された仔魚の数は、昨年を上回ったものの、過去の同時期平均水準よりかなり少なかった。一方、分散状況は今回も良好であった。仔魚の平均全長は11.5mmで、昨年同時期より大きかった。また、全長

組成から判断して、主群の生き残り率は昨年より良いと考えられた。

◎イカナゴしんこの漁況見通し

以上のように、今期は鹿ノ瀬における産卵量が非常に少なかったため、仔魚の採集数も少ない。一方、環境条件は比較的良好であり、仔魚の分散と生き残りは、著しい不漁であった昨年よりは良い。これらのことから総合的に判断して、今年のイカナゴ漁開始時におけるしんこの資源量は、きわめて少なかった昨年を上回るが、近年の平均的水準を下回るであろうと予測される。なお、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年よりやや大きめであろう。

図1　大阪湾口部の水温変化

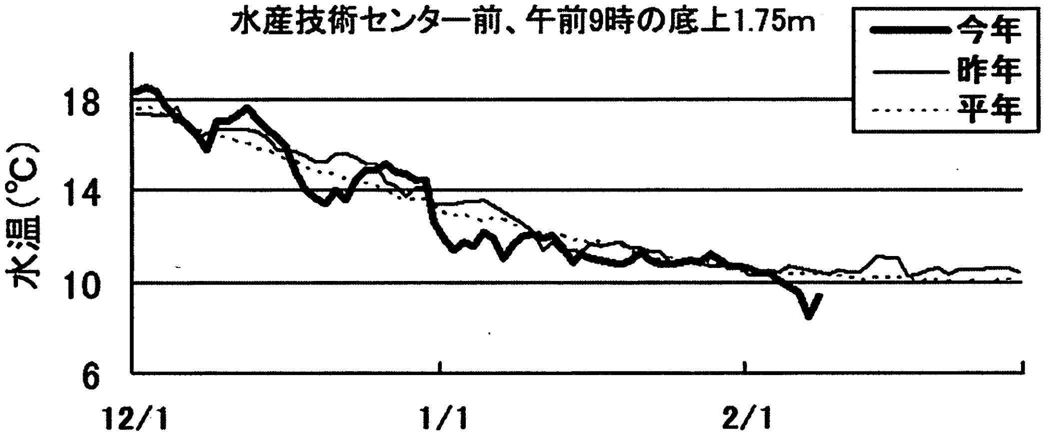
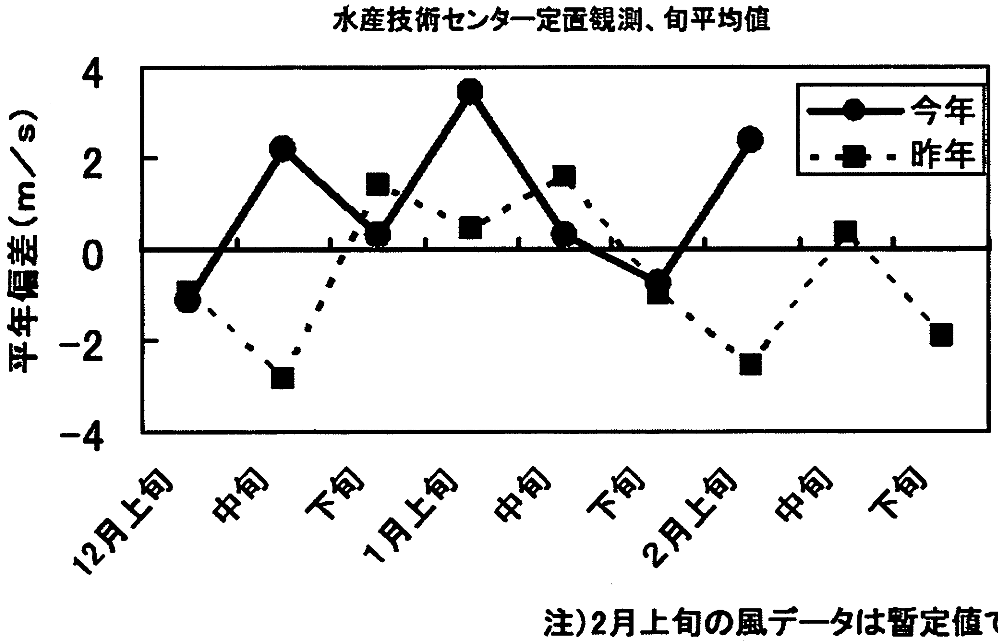


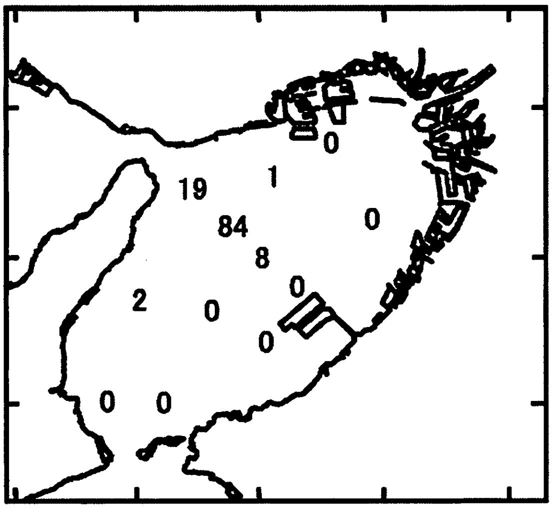
図2　西風成分の平年偏差



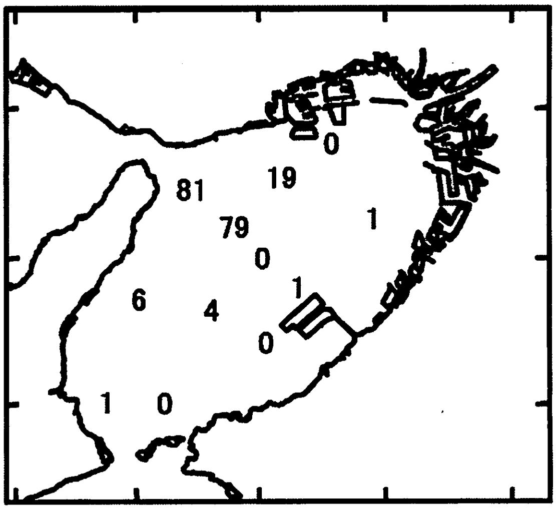
注)2月上旬の風データは暫定値である。

図３　イカナゴ仔魚の採集数

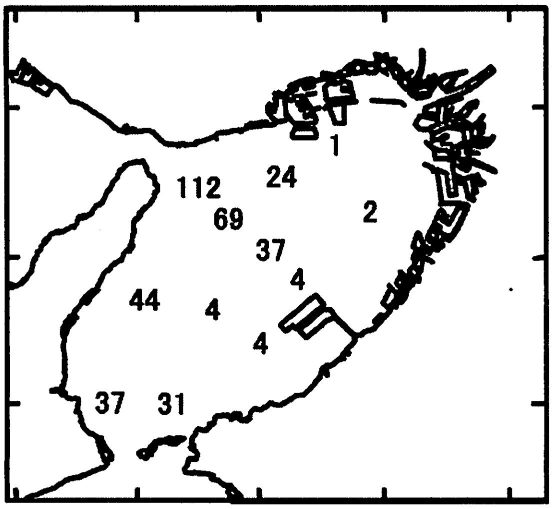
ボンゴネット斜め曳きによる、面積１平方mの水柱あたりの尾数。



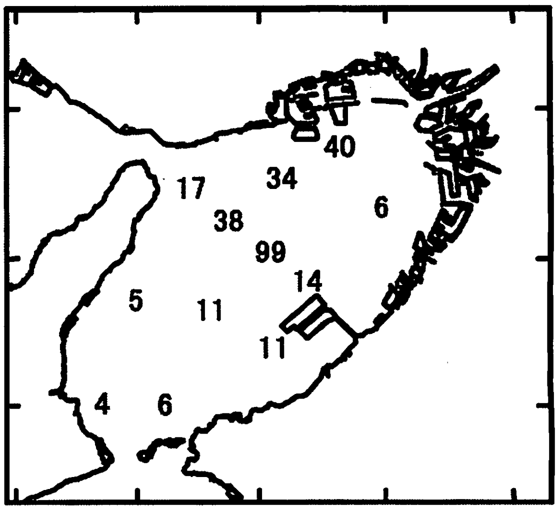
昨年1月5,7日　1点平均 9尾



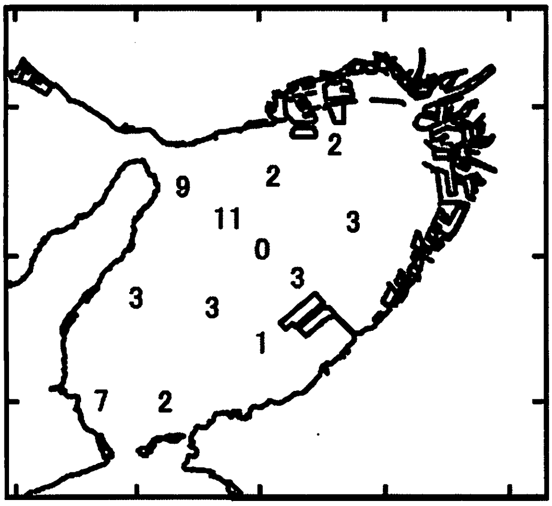
今年1月8,9日　1点平均 16尾



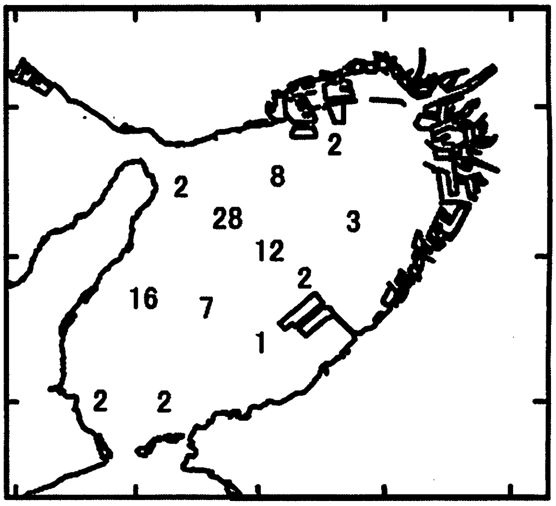
昨年1月20,21日　1点平均 31尾



今年1月18,19日　1点平均 24尾

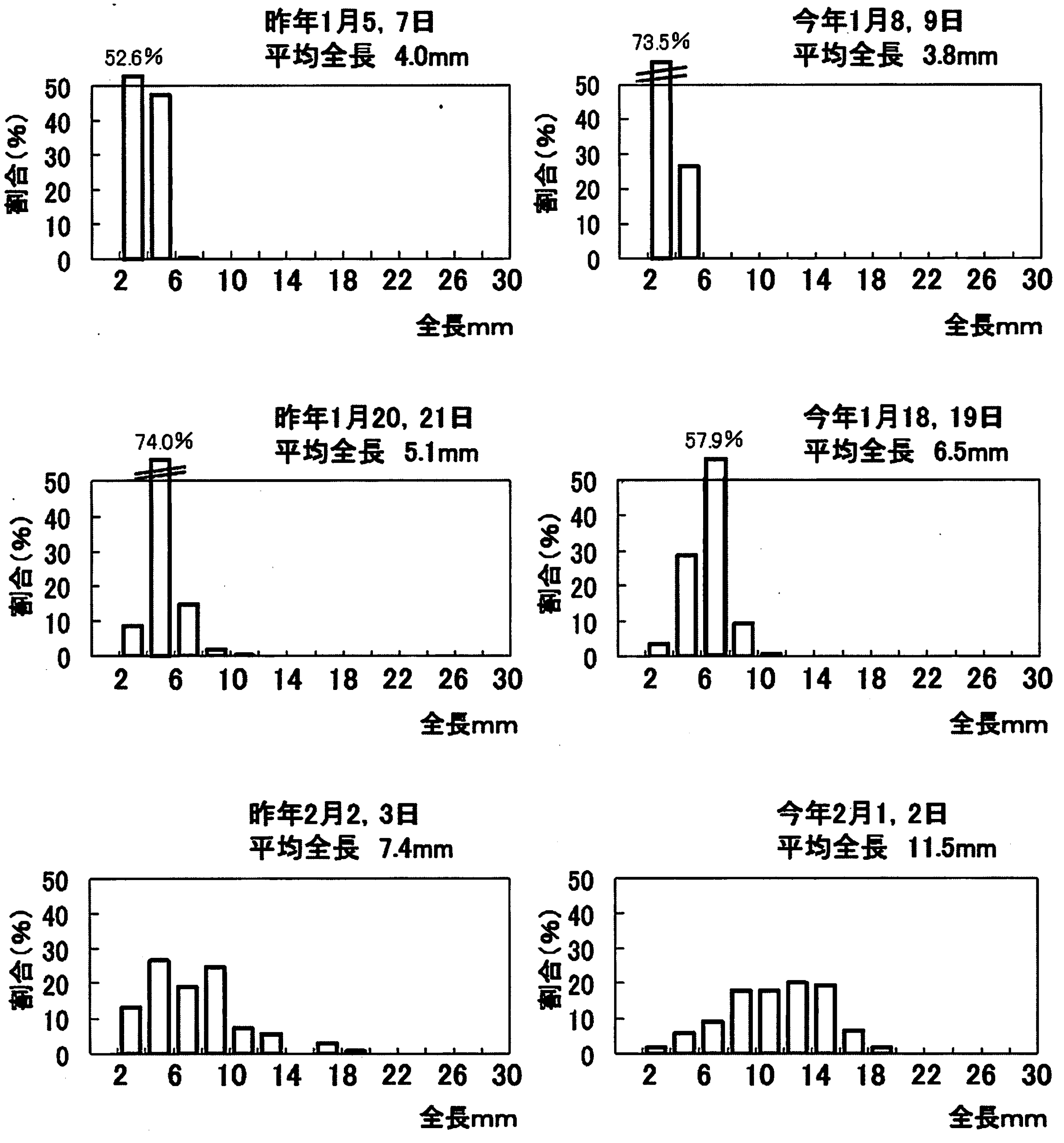


昨年2月2,3日　1点平均 4尾



今年2月1,2日　1点平均 7尾

図4　昨年と今年のイカナゴ仔魚全長組成の比較



昨年　　　　　今年